

事業報告書

事業名：東海地域小中高等学校における国際理解・SDGs出前授業

本事業は、国際開発研究科と、研究科の学生団体「国際理解教育プログラム(EIUP)」が協力して、東海地域の小中高等学校を対象に、「国際理解教育授業」「SDGs理解教育授業」を実施することを目的とした。EIUPは、国際開発研究科における学生の自主団体として、長期にわたり東海地域の学校における国際理解教育に貢献する活動を行ってきた。その活動をバックアップするために、研究科は、この活動を国際開発研究科の社会貢献として重要なものと考え、教員を顧問として配置し、研究科施設内に活動用スペースを提供して、その活動を一部支援してきた。しかし、運営資金はもっぱら学生の自主的負担、出前授業受入校からの実費弁償に依存しており、活動の範囲や頻度に制約があった。また、相手校との連絡やデータ作成・保存に用いるコンピュータや、活動を記録するためのカメラなどは相当に老朽化しており、活動の支障ともなっていた。

そのため、本特別支援事業による経費は、国際理解授業を行うさいの、準備にかかる経費と交通費などの支給および、機材購入費に充てることを目的としていた。

2021年度は、新型コロナウイルスの影響で、小中高等学校のスケジュールがタイトであったことから、新型コロナウイルスのパンデミック前に比較すると国際理解授業の依頼は少なかったが、それでも4件の依頼があった。他方、市町村などが国際理解教育への予算を充実させていることもあり、申請時に予想していたよりも学校側から支払われる謝金が多く、そのため、本事業から費用を充当する必要が少なかった。結果として、認められた経費の全額を執行せず、一部を返還することとした。

本事業の支給が認められたのは、2021年度8月であるが、それ以前も含めて2021年度中には4件の国際理解授業を行った（国際開発研究科30周年記念事業での、一般向け企画を含む）。いずれの場合も、授業実施日当日だけでなく、その前に依頼した学校の担当者と数回にわたる打ち合わせ（対面およびオンライン）や、模擬授業の実施など入念な準備を行った。

以下、EIUPの組織に関する概要、2021年度の国際理解授業実施状況概要を記載し、また個別授業の報告を添付する。

EIUPの概要

2021年度メンバー

代表：日比野菜央

副代表：吉川紗代

リクルーター：熊崎文里、小林勇輝

会計：塚本遼

書記：東爪志緒莉

サポートメンバー：三矢まや、小林未希、石田良太、池田千朋

国際理解授業協力者（主に留学生）：延べ30名

2021年度国際理解授業実施概要

2021年6月8日：名古屋市立楠中学校

2021年7月15日：高浜市立高浜中学校

2021年11月17日：愛知県立一宮高校

2022年2月5日：国際開発研究科30周年記念事業一般向け国際理解授業

楠中学校での様子



一宮高等学校での様子（高校担当者との集合写真）



「プログラム名」：

学校区分	名古屋市立楠中学校		
実施日時	令和3年 6月 8日 (火)		
学年	1 (年生)		
留学生	Al Muizzuddin Fazaalloh, Andi Sahriani Safitri (インドネシア), Gerald Chizonda (マラウイ), Md Junaid Ahmmed (バングラデシュ), Nestor Cubas (ホンジュラス), Abraham Salazar (ベネズエラ), Saetung Apipol (タイ), Muhammad Kamal bin Zulkifle (マレーシア), Li Hongyu (中国)		
スタッフ	熊崎文里、日比野菜央、吉川紗代、小林未希、東爪志緒莉、塚本遼、石田良太、三矢まや、小林勇輝		
目的	海外について興味をもち、知見を広める		
交通手段	地下鉄、市バス		
タイムテーブル	時間	場所	内容
	12:10 13:30 13:50 14:35	GSID玄関集合 中学校着 授業開始 終了	
内容	8カ国9人の留学生が国ごとに8クラスに分かれ、45分間の授業を実施しました。「海外の人から見た日本」がテーマだったので、留学生は母国の文化や食べ物、暮らしぶりなどについて、日本との違いを示しながら英語でプレゼンテーションを行いました。日本人の組織メンバーはそれぞれ留学生とペアになり、プレゼン準備のサポートや、当日は通訳として留学生と一緒に授業に参加しました。		
感想	今回のプログラム実施にあたって、依頼校との綿密な打ち合わせを行ったので、テーマや授業形式など、より希望に沿った授業内容を構成することができました。当日は、生徒のみなさんが留学生の発表に関心を持って聞いてくれたので、最後の質疑応答では各クラスで多くの質問が挙がりました。生徒さんからの素朴な疑問を通して、留学生自身も自国の文化や習慣などの面白さを再発見することができ、有意義な異文化交流の時間となりました。		
問題点	問題点について、主に以下の3点が挙げられます。 1.用意したスライドと教室のモニターのサイズが違ったため、文字が見えづらい、または、一部表示されないなどのトラブルがあった。 2.プレゼンの主体性について、通訳として参加した組織メンバーがプレゼンにどの程度介入すべきか迷う場面があった。 3.授業に生徒さんが参加できる機会が少なく、プレゼンの途中、退屈そうな場面が見受けられた。		
改善点	上記の問題点に対して、今後はそれぞれ、以下のように改善していくべきだと考えます。 1.事前にモニターのサイズと位置を学校側に聞き、スライドのデザインを調整し		

	<p>ておく。</p> <p>2.生徒さんの英語レベルや理解度に応じて、組織メンバーも積極的に授業に参加する。留学生の説明が不十分と思えば、その都度、日本語できちんと補う。</p> <p>3.依頼校の希望にもよるが、質疑応答タイム以外に生徒さんが発言したり、アクティビティに取り組む機会のある参加型の授業形式にする。</p> <p>その他に、今後は組織メンバーから写真撮影係を出すことで、プログラム当日や終了後の活動をよりスムーズに行っていければ良いと思います。</p>
--	---

「プログラム名」:

学校区分	高浜市立高浜中学校		
実施日時	令和3年7月15日(木)		
学年	2(年生)		
留学生	Peter Narh Tokoli(ガーナ)、Al Muizzuddin Fazaalloh(インドネシア)、Muhammad Kamal bin Zulkifle(マレーシア)		
スタッフ	吉川紗代、三矢まや		
目的	AI翻訳機を介した会話を体験し、AI翻訳機の有効性について検証する		
交通手段	Zoom		
タイムテーブル	時間	場所	内容
	10:30 11:00 11:30	Seminar room No.6 集合 Zoom 開始 授業終了	
内容	中学校の生徒さんが事前に考えた質問を日本語で質問し、AI翻訳機が英語に変換、質問の答えを留学生が英語で答え、AI翻訳機を通して日本語で回答を聞く。というスタイルで、生徒さんからの質問にローテーションで回答しました。30分という短い時間でしたが、「どうして名古屋大学で勉強しているのですか?」という質問から、「好きな俳優さんは誰ですか?」という質問まで、幅広いジャンルの質問にAI翻訳機を使用して回答しました。		
感想	質問・回答が完璧に成立しているパターンや、成立しているけれど所々情報が抜けているパターン、質問に対してうまく回答を伝えきれなかったパターンなど、様々なやり取りを通して、生徒さんたちが言葉とAI翻訳機に関して考えを深めるきっかけになったのではないかと思います。連続した会話をしたほうがAI翻訳機の有効性を検証できたと思いますが、基本的に質問に対して答える、というワンターンで終わってしまいました。また、留学生も英語がネイティブではないので、翻訳機がうまく言葉を拾えない時は、母国語に変えたり、自動生成された英語を修正したりしている場面が見受けられました。木村先生によると生徒さんたちはいつもより消極的だったようですが、留学生はAI翻訳機を通してのコミュニケーションを楽しんでいるようでした。		
問題点	オンラインであったため、顔が見れる生徒さんが限られており、回答に対する教室の反応がイマイチ伝わってこなかった点が残念でした。マイクの都合上か、生徒さんが質問しているときに、床が映ってしまっている時もありました。(こちらは回答者1名が画面に映っているというスタイルでした。)AI翻訳機を用いた間接的なコミュニケーションでる上		

	<p>に、リアクションや空気感などを感じるができなかったため、会話が膨らまなかったことが、質問がワンターンで終わってしまう原因の一つでもあったのかなと思います。</p>
改善点	<p>今後オンライン開催をする際は、カメラをどれくらい用意して、どこを映すのか、といった打ち合わせまで行えると、良いかと思います。</p> <p>授業内容に関しては、「質問を事前に知れなかったため答えづらい問題もあった（例：好きなお寿司は何ですか→お寿司の種類をそれほど知らない）」（ムイズさん）というフィードバックがありました。今回は町で外国人と会ったことなどを想定し、そこでAI 翻訳機を用いて会話が可能かということを検証したいということだったので、事前に質問をもらうことをしませんでした。留学生には見せないまでも、EIUP の方で多少内容を確認しておく、テーマを絞ってもらう、という程度の事前準備はしてもよかったかもしれません。</p>

「プログラム名」：

学校区分	一宮高等学校		
実施日時	令和3年11月17日(水)		
学年	高校生(2年生)		
留学生	16人 国名:インドネシア、バングラデシュ、タイ、マレーシア、ベナン、中国、マラウイ、パキスタン、ラオス、ウズベキスタン		
スタッフ	2人(東爪、日比野)		
目的	グローバル人材についてのディスカッション		
交通手段	電車		
タイムテーブル	時間	場所	内容
	8:30 8:40 12:15 15:15	校門	集合 授業開始 お昼休憩 解散
内容	高校生がグループになっているので、そこに留学生が1人ずつ入っていき、ディスカッションを行う。学生は移動し時間の限り多くの留学生と関わる。		
感想	留学生がうまく議論をファシリテートしていた。留学生によってグローバル人材について議論するための方法が異なっていたのが面白かった。		
問題点	1人の留学生が電車の発車時刻ギリギリに到着、1人の学生は寝坊により遅刻した。 謝金が振り込まれる時期を聞いていなかった。		
改善点	集合時間には余裕を持って設定する。 謝金の振込時期を確認する。		

「プログラム名」：GSID30周年記念イベント

学校区分	GSID	
実施日時	令和4年2月5日(土)	
学年	—	
留学生	3人 国名:マラウイ、モザンビーク、ラオス	
スタッフ	2人(池田、小林)	
目的	自国の文化紹介を通じて国際理解を深める	
交通手段	オンライン	
タイムテーブル	時間	内容
	10:00 10:15	EIUPの紹介 留学生によるプレゼン&ディスカッション
	11:00	終了
内容	留学生が文化紹介をした後、参加者とディスカッションを行う。	
感想	参加者が研究分野以外の国の理解を深めることができ、短時間だったが、視野を広げることができ、有意義な時間だったと思う。	
問題点	地域貢献特別事業費を謝金として利用する手続きがぎりぎりになってしまった。	
改善点	地域貢献特別事業費を利用する場合は最低でも1か月前に手続きを始める。	